

平成 30 年度  
事業報告書

社会福祉法人 千鳥会



## 目 次

法人本部	4～8
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	9
津名デイサービスセンター	9
千鳥会居宅介護支援事業	9～10
千鳥会在宅介護支援センター	10
家族介護教室・家族介護者交流事業	11
地域支援事業 (高齢者住宅等安心確保事業・ふれあいの集い ちどり・地域見守り事業・配食サービス・介護相談窓口)	11～12
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	12
ゆうらぎデイサービスセンター	13
ゆうらぎ訪問介護ステーション	13
養護老人ホーム 北淡荘	14
地域密着型特別養護老人ホームほほえみ	14
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	15
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	15
ちびっこランド ちどり	16
グループホーム しおさい	16
しおさいデイサービスセンター	17
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	17
佐野デイサービスセンター	17
千鳥会福祉用具貸与事業所	17

2018(平成 30)年度 事業報告書 社会福祉法人 千鳥会

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
理事会	平成 30 年 6 月 4 日	千鳥会 法人本部	5/6	①平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業報告の件 ②平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 決算報告の件 ③平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 監事監査報告の件 ④社会福祉充実残高の算定について ⑤福祉用具貸与事業所の開設の件 ⑥ちびっこランド(保育事業)移転の件 ⑦障がい者短期入所サービス申請の件 ⑧役員構成の件	高田浩志	宮尾慶子 船越洋子
評議員会	平成 30 年 6 月 25 日	千鳥会 法人本部	8/8	①平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業報告の件 ②平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 決算報告の件 ③平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 監事監査報告の件 ④社会福祉充実残高の算定について ⑤福祉用具貸与事業所の開設の件 ⑥ちびっこランド(保育事業)移転の件 ⑦障がい者短期入所サービス申請の件 ⑧役員構成の件 ⑨人事異動の件 ⑩ゆうらぎ北淡荘大規模修繕の件	なし	宮尾慶子 船越洋子
理事会	平成 30 年 8 月 27 日	千鳥会 法人本部	6/6	①平成 30 年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算の件 ②ちびっこランド(保育事業)移転の件 ③社会福祉法人 千鳥会 ロゴマーク商標登録の件 ④人事異動の件 ⑤大規模修繕の件 ⑥その他	宮尾慶子	船越洋子
理事会	平成 30 年 12 月 17 日	千鳥会 法人本部	5/6	①平成 30 年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算の件 ②ちびっこランド(保育事業)進捗状況の件 ③定款変更の件 ④人事異動の件 ⑤理事変更の件 ⑥その他	阿部耕三	宮尾慶子 船越洋子
評議員会	平成 31 年 3 月 4 日	千鳥会 法人本部	6/8	①ちびっこランド(保育事業)移転進捗状況の件 ②定款変更の件 ③理事変更の件 ④人事異動の件 ⑤その他	仲野和美 米田泰幸	宮尾慶子 船越洋子
理事会	平成 31 年 3 月 25 日	千鳥会 法人本部	6/6	①平成 30 年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算の件 ②2019 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業計画の件 ③2019 年度 社会福祉法人 千鳥会 新年度予算の件 ④諸規定変更の件 ⑤ちびっこランド(保育事業)移転の件 ⑥その他	なし	宮尾慶子 船越洋子

## 2. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
全職員	兵庫県警察 淡路警察署 生活安全課 田中様	防犯（不審者侵入対策）研修	2018年6月26日（火）	19名
			2018年7月19日（木）	18名
			2018年8月2日（木）	23名
			2018年9月6日（木）	45名
			2018年9月20日（木）	41名
			2018年10月1日（月）	41名

## 3. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目／実施場所		参加人数
職員福利厚生事業	2018年9月24日（月）	バレーボール	神戸ワールド記念ホール	11名
	2018年9月28日（金）	BBQ	佐野デイサービスセンター（雨天決行）	26名
	2019年2月20日（水） 2019年3月11日（月）	研修発表 立食パーティー	法人本部	32名 89名
職員親睦会	2018年5月25日（金）	「ウェスティンホテル淡路」		172名
職員親睦旅行	2018年5月13日（日）	京都		19名
	2018年6月10日（日）	高知		47名
	2018年8月5日（日）	大阪		46名
	2018年8月31日～9月1日（金～土）	長野		17名
	2018年9月9日（日）	USJ		31名
	2018年10月14日～16日（日～火）	東京		21名
	2018年11月11日～12日（日～月）	石川		37名
忘年会（ゴールド）	2018年12月7日（金）	「きとら 津名店」		47名
新年会（佐野デイ）	2019年1月5日（土）	「津名ハイツ」		7名
新年会（ぬくもり）	2019年1月11日（金）	「味心 晶」		9名
職員健康診断 （前期・後期）	2018年5月	ゆうらぎ・北淡荘		37名
	2018年5月～6月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		95名
	2018年8月	ほほえみ		57名
	2018年10月	ゆうらぎ・北淡荘・本部		102名
	2018年11月	ゴールド・しおさい・ぬくもり		34名
	2019年2月	ほほえみ		22名
職員腰痛検査 （前期・後期）	2018年8月	佐野デイ・ほほえみ		51名
	2018年8月～9月	ゴールド・ゆうらぎ・北淡荘・しおさい・ぬくもり		157名
	2019年2月	佐野デイ・ほほえみ		50名
	2019年2月～3月	ゴールド・ゆうらぎ・北淡荘・しおさい・ぬくもり		153名

インフルエンザ 予防接種	2018年10月～11月	ゆうらぎ・北淡荘	96名
	2018年11月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ・ほほえみ・本部	160名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所	全職員

#### 4. 入社式（入職者）・退職者

入社式	新入職員数
2018年4月2日	7名
2018年8月1日	4名
2019年2月1日	5名
合計	16名

月	退職職員数
4月	3名
5月	2名
6月	2名
7月	1名
8月	5名
9月	1名
12月	3名
1月	1名
2月	1名
3月	6名
合計	25名

#### 5. 産前産後休業・育児休業・復帰後短時間勤務取得者数

産前産後休業	2名
育児休業	2名
短時間勤務	0名

#### 6. 職員奨励金・助成金

	事由	内容	件数
自己啓発支援	報奨金	介護支援専門員	4件
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	2件
自己啓発支援	報奨金	調理師	1件
自己啓発支援	報奨金	認知症ケア専門士	2件
自己啓発支援	報奨金	第二種衛生管理者	4件

公益事業・・・社会福祉事業以外の事業で、その事業を行う事が公益法人の事業となり得る社会福祉と関連する事業

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
社会福祉法人減免制度	低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割にかんがみ、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。	○	○	○				
介護予防教室	早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援することにより、要支援や要介護状態の予防やその重度化の予防と改善を図る。	○	○					
介護技術講習会	要介護・要支援状態になっても出来る限り在宅で安心して暮らし続ける為には介護保険サービスを利用する事に加え、家族の介護力を高める事も重要である事から、外部向けの技術研修を実施し、家族介護力の向上を目的とする。	○		○				
認知症予防教室	認知症の早期発見・重症化予防および要支援、要介護状態になることを防ぐこと、認知症について正しく理解し、自宅でも継続して取り組める予防方法を周知することで、参加者がいきいきと自立した生活を送れることを目的とする。	○		○				
福祉体験学習事業受入	夏休み中に福祉施設での仕事の様子の見学、体験をしたり、高齢者や障がい者と触れ合うことで、思いやりの心を育てるとともに、福祉に関わる仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。	○	○	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成研修 (委託事業)	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、千鳥会在宅介護支援センターとして委託を受けて実施する。	○	○					
地域サポート型施設 (兵庫LSA又見守り活動)	高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域住民を対象に24時間体制の見守り等を行う。	○	○	○				

地域公益活動・・・社会福祉事業や公益事業のうち公的制度の給付対象外のもの（公的制度の給付対象となっていないもの）

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
学生の実習生の受入れ	高校・短大・専門・大学の学生が履修するカリキュラムの中での実習の受け入れを行い、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	
職場体験 (トライやるウィーク)	ボランティアや福祉体験を共有する取り組みや、「トライやる」アクションでの社会福祉施設等における介護等の体験により、福祉学習の充実を図る。	○	○		○	○		
祭り地域交流 (春・夏・秋)	地域交流の一環として、季節のお祭り行事を通じて地域住民を招待し、ご利用者、スタッフ共に地域との交流を図る。	○	○	○	○		○	
各種ボランティア(慰問等) の受け入れ	施設への慰問を通じて、外部ボランティアとご利用者との交流を図る。	○	○	○	○	○	○	○
いきいき100歳体操	地域住民の健康増進を目的としていきいき100歳体操の実施場所として、無料で施設を開放。		○	○			○	
訪問サービス (介護保険外事業)	低所得者を対象に、介護保険サービス以外で低額で訪問サービスを実施。		○					
ゴミ出しサービス	安否確認を兼ねて自宅を訪問し、ゴミの廃棄のお手伝いを行う。	○	○	○				
ふれあいの集い	要介護認定の自立者を対象に、介護予防を目的として低額でデイサービス実施	○						
認知症サポーター養成研修	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、淡路市地域包括支援センターの委託(無料)を受けて受講者にも無料で実施。	○		○				
配食サービス	高齢者向けの弁当を低額で自宅に配達するサービスで、対象は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯とする。	○	○	○				
一時預かり保育	児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。							○
デイサービス (夕食サービス)	夕食を食されてから帰宅したいご利用者の希望に応じて、食費のみ頂いて送迎は無料で行うサービス。		○	○				
プルタブ回収	空き缶散乱公害がなくなり、回収したプルタブが一定量蓄積されると車椅子が製造できるという利点を活かし、福祉団体への寄贈を目	○	○	○	○	○	○	○

	的に、三洋電気洲本工場OB団体「洋友会」を通じてボランティア活動を実施。								
使用済み切手収集	使用済み切手の収集を行い、団体を通じてアジアやアフリカの保健医療事情の向上のため役立てる事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○	○
エコキャップ運動	ペットボトルのキャップの収集を行い、社会福祉協議会、NPO法人を通じて発展途上国の医療支援に貢献する事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○	○
宅配サービス	事業所から業者に商品を集計した書類をファックスし、1～2日後にご利用者自宅に届くというシステム。重たい品物、大きな品物でも購入することができ、ご利用者の買い物難民救済に役立てる。	○	○	○					
ケアローソン (介護相談窓口)	高齢化や健康意識の高まりを受け、社会の変化に対応した次世代コンビニモデルの構築に取り組む。通常のコンビニ機能に加え、ケアマネジャーなどの相談員が駐在する介護相談窓口や、地域の方の交流の場として活用できるサロンスペースも店内に併設している。	○	○	○					
ギャラリー展示	地域の方等の作品を展示する。	○	○	○					
日本財団自動販売機設置	飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトに寄付する。	○	○	○					
寄っていかんか千鳥	ご利用者が作った作品を、誰かが買ってくれることで、ご利用者に自身の価値・存在を感じ、認めてもらうために実施。また、その中で世代間交流や地域とのつながりを持ち、地域の方の集いの場所にする。	○							
中学校出前授業	介護の魅力、必要性、社会情勢等、介護の現場を知ってもらう目的として実施。	○	○	○					
高校福祉授業	福祉についての理解を深める為に、「認知症サポーター養成講座」等を実施。	○							

## 7. 情報公表サービス受審

### ■ 第三者評価

しおさい しおさいデイ	2019 (H31) 年 3 月 26 日
----------------	-----------------------

### ■ サービス評価 (淡路市提出日)

ぬくもり	2019 (H31) 年 2 月 15 日
小規模ほほえみ	2019 (H31) 年 2 月 25 日

### ■ 指導監査

佐野デイサービス	2018 年 10 月 16 日
----------	------------------

## 8. 総括

制度創設の始めは、地域の福祉課題を掘り起し、それを社会全体で共有化して、実践的対応とともに制度化してきたということが社会福祉法人の本業であったはずですが、しかし、今は、「何をやっているかわからない」と世間の風は厳しい状況です、そのためには、改めて社会福祉法人の存在意義を確立していく必要がありました。

この度の制度改革の本質は、「社会福祉法人を理解していただく仕組みづくり」だと捉えています。しがって、社会福祉法人の使命を果たすには、地域等との「信頼関係」が構築されていることが前提となります。

社会の変化に対応するために、更なる質の向上を図り、ガバナンスを確立していくことが重要です。

重点課題とその取り組みに対して、全国経営協の指針をもとに、重点的に取り組むべき課題として、「4つの基本姿勢」のそれぞれから、取り組み課題をとして位置付け、各事業所取り組んでまいりました。



## 特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

### 2018年度事業所総括

セラピストと連携し、介護技術向上、介護技術指導などを充実させ、職員個々のスキル向上、利用者一人ひとりがその人らしく、安心して生活できるように支援することを目標に取り組んだ結果、個々の利用者に合った福祉用具（車椅子、ポジショニング用クッション、歩行器等）の活用や適切なポジショニング、シーティング、移乗等の介助技術向上に活かすことができるようになってきております。

職員教育、人材育成においては、福祉用具の業者を招いての勉強会やセラピストによる介護技術の勉強会を実施し、福祉用具の使用法の習得や介護技術の向上を図ることができました。三人行事・ユニット行事は、日程の調整や職員体制の充実等を図ることで、より安全に、個別対応が可能となり、顧客満足の上昇に繋がっております。

地域貢献事業においては、今年度も「寄っていかんか〜！千鳥」を開催し、地域の拠点としての役割、地域貢献、住民の行き場所づくりなど行うことができました。来年度より地域サポート施設として、市役所、地域包括支援センター、社会福祉協議会と協議し、地域のニーズについて把握し、千鳥会でできることを実践していきたいと思っております。

### 2019年度への課題及び展望

2019年度も引き続き、人材育成、専門性・サービスの向上、地域貢献、情報発信を目標に取り組みたいと思っております。

教育訓練や研修の内容を充実させ、福祉の専門職としての意識、向上を目指し、職員の質の向上を図ります。仕事や業務についての理解、社会のモラル、常識ある接遇（あいさつ、言葉遣い、整理整頓、掃除など）の社会教育に取り組み、職員の意識向上、働きやすい環境作りに努めます。また、指導者としての資質を向上し、リーダー育成に努めます。

家族や地域との関係を継続、促進できるよう、1年を通して地域のイベントに積極的に参加し、また施設の行事に家族や地域の方々も参加できるようイベントを計画します。

寄っていかんか〜！千鳥を定着し、利用者の社会参加、地域との関係性を強化し地域貢献を行います

外部への情報発信継続に向け、フェイスブック・おたより・ひなた新聞・実践発表などを行います。また、出前授業、介護技術講習会、トライやる等で福祉の仕事、魅力を伝え福祉教育に取り組みます。

コスト削減をしっかりと意識し、稼働率を安定させ収益確保に努めます。

## 津名デイサービスセンター

### 2018年度事業所総括

2018年度の1年間は、より良いサービスを提供する為、他部署や他職種との連携を図る、介護技術の向上、個別ケアの充実を下記のように取り組みました。

- 教育、研修を充実し、職員のスキルアップ
- デイ会議、ケア会議で他部署、他職種と連携
- 開業医・居宅介護支援事業所にサービスの内容の紹介
- サービスの充実。（セラピストによる個別機能訓練の充実を図る）

セラピストによる機能訓練への意識の向上、クッキングレクや買い物で生活リハビリにも力を入れました。毎月1回イベントレクを計画し、他曜日からも利用して頂けるように取り組み、喜んでいただきました。初の試みで遠足を企画し、神戸どうぶつ王国に行きました。利用者、家族からの声を聴き、その声を取り入れたサービスや社会資源を活用した行事の実施と地域との関わりを持った利用者の自立支援に向けたサービス提供を行う事を計画に入れ、在宅生活を維持継続できる取り組みを積極的に行っていました。

デイ便りやフェイスブック等を通じて津名デイサービスの取り組みを外部に情報発信して行きました。又、業務内容の見直しによって無駄をなくした効率化、また職員間での連携を密にできる体制を整え、顧客満足の上昇とともにESの向上にも繋がっていった1年でした。

### 2019年度への課題及び展望

利用者、家族が望む生活が送れるように、自立支援を強化し、自宅、地域での生活が継続できるように支援します。また、地域、関係機関と連携し、情報収集、情報共有に努め、地域における事業所の役割を意識したサービス提供を行います。

2019年度も小中高との関係性を維持し、福祉の魅力の発信に努めます。

なりたい自分、こうありたい事業所に対して具体的なビジョンを職員一人ひとりが持ち、主体的に活動を行います。

稼働率の向上を目指し、利用者、家族、関係機関との信頼関係を構築し、選ばれる事業所作りに取り組みます。

サービス内容、業務内容の見直し、新たな取り組み、経費削減を行い、適正な運営、収益の安定を図ります。

## 千鳥会居宅介護支援事業所（千鳥会在宅介護支援センター）

### 2018年度事業所総括

2018年度も、利用者のニーズを把握し迅速且つ的確に適切なサービス調整ができるようアセスメント・モニタリングの充実に努めるとともに、毎週定期的なケース検討会議を実施し、ケアマネジャー間の情報共有を図ると共に、主任ケアマネの指導、ケアマネ間の意見交換を通して、個々の気づきの力を養うことができました。居宅を統合して3年半が過ぎ、統合したメリットである、職員教育、人材育成を強化していくことができました。支援家族に対しては抱え込まない介護を呼びかけると同時に、ひまわりの会をはじめ、各地区で行われている認知症をささえる家族の集いを紹介し、参加のお手伝いをさせて頂きながら、介護負担の軽減に繋がるサービスの対応を行っ

てきました。また、各地域ケア会議やケアマネ連絡会等に定期的に参加する事で、関係機関と顔の見える関係性を保ち、適宜情報交換をしながら地域の動きにも気を配りました。積極的に医療機関へ赴き、医療連携室等と入退院時のスムーズな情報交換を行い医療機関及び各関係機関とも連携体制を整える事ができました。また、認知症の疑いのある利用者には県立淡路医療センターの認知症疾患医療センターに確定診断を受けるように勧めるとともに、早期に作業療法士や地域包括支援センターの保健師と同行し、利用者が有する能力は何か、どのように支援を行えば在宅生活が継続できるのか等について話し合いを行いながら、個別の適切なケアマネジメントを行うことができるように取り組み、在宅生活に於いてできる事が増えた利用者もおられ、自立支援に繋げることができました。

#### 2019年度への課題及び展望

2019年度は引き続き法令遵守の徹底と、リスク管理、信頼関係の構築、地域包括ケアシステムへの取組、医療と福祉の連携体制強化を目標にしていきます。また各サービス提供事業所やインフォーマルサービス事業所等とも情報交換を行い、家族の協力を得ながら利用者の尊厳を守りつつ、自立支援に向けたサービスの提供を目指すとともに、利用者・家族が安心して在宅生活を継続できるよう支援していきます。

また、認知症になっても住み慣れた地域・自宅でこれからも暮らせるように、職員の資質向上とメンタルヘルスケア、提供する居宅介護支援サービスの質の向上、支援情報の伝達への取り組み等を継続しながら、居宅介護支援がチームであることを念頭に置き、介護支援専門員として個々のそして、チーム全体の支援力向上を確実なものとし、地域の皆様から選んでいただける居宅介護支援事業所を目指します。

利用者家族のニーズを把握し、介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ信頼関係を構築し、利用者が住み慣れた地域で自身らしい在宅生活が継続できるように支援していきます。

介護保険制度だけにとらわれず広い視野で利用者の生活及びその方を取り巻く環境を評価し、地域との関係が途切れないように地域への支援も行い、また制度で補えない課題等も地域と協働し地域作りを行います。

千鳥会の取り組みなどを外部に積極的に情報発信しPRに努め、また、積極的に地域に出向き出前講座等の啓発を行い、福祉職の魅力をPRし、地域の福祉力向上、福祉の担い手不足解消に貢献できるよう支援します。

職員間の連携を密にとり情報共有、部署内で協力し業務が効率的にできるようにします。

法令厳守し、アンテナを張り情報収集に努め、部署内で共有し部署内のスキルアップに努め、また、会議等でも積極的に発言、提案を行いリーダー育成に努めます。

経費削減を意識し、適切な業務遂行を行い、安定した運営を目指します。

## 千鳥会在宅介護支援センター

#### 2018年度事業所総括

在宅介護支援センターは地域に根差し、概ね65歳以上の高齢者を対象に生活に関わる身近な相談を受け、問題解決の方法について関係機関と連携しながら、一緒に悩みが解決できるよう支援する窓口です。日頃から地域の民生委員、相談専門員、老社会、町内会など多岐の関係者と連携を密にしておくことが、地域における高齢者の相談機関の役割を果たすためには必要であると思います。

2018年度、津名地域においては、民生委員の定例会に参加し、在宅介護支援センターの役割を理解して頂き連携を図れるよう情報共有に努めるとともに、独居高齢者の訪問を行い、実態を把握し、状況により介護サービスや地域のインフォーマルサービスにつなげていけるように図ってきました。津名地区、北淡西地区とも「千鳥会在介・包括・社協との連絡共有会」に毎月出席をし、個別ケースの検討を行い、「地域ケア会議」では、ケース検討を行い、地域課題の発見・把握を行い、地域づくり・資源開発の検討を行い地域包括ケアシステムの実現を目指しています。淡路市にある「3在介・包括連絡会」にも毎回参加をし、在介が抱える課題などを水平展開しています。

また地域住民や企業、学校に対し「認知症サポーター養成講座」を行い認知症への理解や協力、見守りの必要性を啓発し地域力アップに繋げています。地域に根差した相談機関であるために、各関係機関との連携を強化するのは勿論のこと、今後ますます重要になってくるインフォーマルサービスの活性化と開発に向け各関係機関や地域と連携し誰もが住みやすい地域作りに貢献してまいります。

#### 2019年度への課題及び展望

利用者家族のニーズを把握し、介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ信頼関係を構築し、利用者が住み慣れた地域で自身らしい在宅生活が継続できるように支援してまいります。

介護保険制度だけにとらわれず広い視野で利用者の生活及びその方を取り巻く環境を評価し、地域との関係が途切れないように地域への支援も行う。また制度で補えない課題等も地域と協働し地域作りを行います。

千鳥会の取り組みなどを外部に積極的に情報発信しPRに努め、積極的に地域に出向き出前講座等の啓発を行い、福祉職の魅力をPRし、地域の福祉力向上、福祉の担い手不足解消に貢献できるよう支援してまいります。

職員間の連携を密にとり情報共有、部署内で協力し業務が効率的にできるようにします。

法令厳守し、アンテナを張り情報収集に努め、部署内で共有し部署内のスキルアップに努めます。また、会議等でも積極的に発言、提案を行いリーダー育成に努めます。

経費削減を意識し、適切な業務遂行を行い、安定した運営を行います。

## 家族介護教室・家族介護交流事業

### 2018 年度事業所総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味のある方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに役立てていただけるよう配慮し、定期的を開催しました。

自宅で介護をされる中で大きなストレスや不安を抱えられている方が多く、相談できない・方法が分からない等の悩みを解消する為にも、家族介護教室の目的や利点等をお伝えし、参加して頂けるよう声掛けに努めていきました。参加する事で今までの悩みの解決方法が、見い出せ、視野が広がったとの意見も聞かれ、意義ある家族介護教室を開催することができました。

今後も定期的に開催し、在宅介護においての不安や悩みが少しでも軽減できるよう、今後も様々な角度からの内容を提供していきたいと思えます。

### 2019 年度への課題及び展望

2019 年度、家族介護者教室及び家族介護者交流事業においては以下の通りの内容を実施します。  
介護者自身が悩みを吐き出したいとの要望があり今年度も座談会を中心に行います。

- (1) 座談会
- (2) 他の家族会との交流
- (3) 作業療法、もの作り
- (4) 福祉用具体験
- (5) 施設見学
- (6) 実技
- (7) 終活、成年後見
- (8) 様々な介護保険サービスについての説明
- (9) その他

\*現在介護されている方だけでなく、一般に介護に興味のある方など、皆様と私達が一緒になって勉強したり、情報交換をしたり、高齢者介護についての話し合いが行えるような雰囲気作りを心がけ、多くの方が参加できるように努めます。

\*家族介護者交流事業は、介護者同士が交流を深めるとともに、心身ともにリフレッシュ出来るよう企画します。

## 地域支援事業

### 2018 年度事業所総括

できるだけ住み慣れた地域で自分の力で、活動的な生涯を送りたいという願いを現実のものとするために、要介護、要支援状態になる前から、一人ひとりの状態に応じた予防対策を図るとともに、要介護状態になった場合においても、地域で自立した日常生活を送ることを目的として地域支援事業が実施されます。地域支援事業は介護サービスや、介護予防サービスと並び、介護保険制度の3つの柱の一つとして考えていきたいと思えます。2014 年度から開始したふれあいの集い・ちどりは、利用者が主体となり、プログラムを決めていただき、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。

高齢者住宅等安心確保事業は、入居者の生活状況に合わせた訪問を行うことで、信頼関係が構築でき、近隣者からの協力も得ることが出来ています。また包括支援センター、関係機関との連携も図れています。

配食サービスでは、バランスと摂れた食事内容と福祉職員が配達するという事で安心感を持っていただいております。お弁当を配達するだけではなく安否確認、コミュニケーションを図ることができています。

今後、社会福祉法人としてどのように地域貢献を行って行くのか課題ですが、高齢であっても、障害があっても、地域住民として住み慣れた地域でできる限り安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することを支援していきます。この事業は2018年2月23日よりローソン東浦浦店内にケアローソンとして介護相談窓口を開設しました。介護支援専門員等の相談員が常駐し、介護相談援助業務を行い、必要時は、行政機関、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、担当介護支援専門員、事業所等に情報伝達、共有を行い、問題解決ができるように支援しました。

また、サロン活動、広報活動等を積極的に行い、地域の方が気軽に集える居場所の1つになれるよう取り組みました。

#### (1) 高齢者住宅等安心確保事業

安否確認と生活指導相談などの訪問件数は3610件。生活指導相談7件。緊急出動31件、この緊急通報での出動は独居者で入退院後の体力減退で自宅での生活に不安、定期的水使用がままならなくなつての通報や、殺虫剤に反応する機器の為の出動などの31件です。住宅の住人も長期の入退院や高齢化が進んで、住宅内の安否確認・生活指導相談・緊急通報などの安否確認の継続を行い関係機関等と連携し、日々の生活に不安が強い方達には、地域包括支援センターや介護保険サービス・自費の訪問介護利用に繋げるように継続を図っていきます。

#### (2) ふれあいの集い・ちどり

生きがいデイサービスを利用していた利用者より、今後も定期的に地域の方と親交を持てる場が欲しいと希望され、独自のサービスとして、2014年4月から開始しました。

利用者が主体となり、プログラムを決めていただき、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。希望により、食事、買い物、季節の花の鑑賞、観劇、初詣と楽しんでいただきました。アクティビティとして、手芸、脳トレーニング等を楽しんでいただきま

した。また、9月に地区ごとに敬老会を開催し、お茶を楽しんでいただきました。

### (3) 地域見守り事業 兵庫 LSA

利用者が住み慣れた地域で安心して自分らしく過ごして頂く為、定期的に見守り活動を実施し、また相談援助を行い、必要に応じ地域包括支援センター、担当ケアマネジャー、在宅介護支援センターと連携を図っていく。また、地域住民、民生委員に事業内容をより深く理解していただく様に広報活動を行っています。

### (4) 配食サービス

2014年9月から開始した配食サービスは、サンフード株式会社との共同によりバランスの摂れた食事内容を提供して頂いています。福祉施設の職員が配達する事で安心感を頂いています。また同時に、安否確認とコミュニケーションを図ることも出来ており、包括支援センター、居宅支援事業所からの紹介も増えてきています。今後、益々利用者数が増えると予想されます。

### (5) 介護相談窓口

2018年2月23日(金)にローソン東浦町浦店内に「千鳥会介護相談窓口」を開設しました。地域の高齢者、又はその家族に対し、様々な相談に応じ、そのニーズに対応した相談援助を行い、必要時には各関係機関との連絡調整を行い問題解決に努めることを目的とします。また、サロン活動等を通して地域の方が気軽に集え、顔なじみの関係性ができ、必要時には相談援助ができる関係作りを目指します。

## 2019 年度への課題及び展望

定期的にモニタリングを行い安心・安全にサービスを行います。また、利用者との信頼関係構築に努め、必要時には居宅介護支援専門員と連携し相談援助業務が行えるように支援していきます。

地域の福祉課題に対し柔軟に対応できる体制を作り、担い手の一つとなれるよう地域支援の啓発に努め、地域住民との信頼関係構築し、気軽に相談できる開かれた地域の相談窓口を目指します。

千鳥会の取り組みなどを外部に積極的に情報発信しPRに努めます。

職員間の連携、助け合いを行い働きやすい環境づくりを行います。また、業務の効率、無駄を常に意識し改善に努めます。

経費削減、新規獲得を常に意識し業務を行い、また、新規開拓に力を入れ、必要時には地域支援から介護保険サービスへの移行がスムーズに行えるよう各関係機関との連携を強化します。

## 特別養護老人ホームゆうらぎ

### 2018 年度事業所総括

ゆうらぎでは、利用者が安全に安心して生活が送れるように毎年事故減少に向けて取り組んでいます。一昨年度から、事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を作成しています。昨年度もこの表を軸に分析に力を入れました。一昨年度から重大事故0件を達成していましたが、昨年度は利用者の状況も変わり、2件発生してしまいました。ただ、一度起きた事故については反復的に起きないように対策を講じております。また、事故の内容を検討する機会が無かったため月1回会議を行い、内容を話し合う機会を設けています。今後も継続し、事故防止に力を入れていきます。

新たな取り組みとして、①身体拘束廃止、②個々に応じた看取り介護の実施、この2点を行いました。まず、①身体拘束廃止についてはマニュアルや指針を新たに整備し統一した認識の下、ケアが行えるよう、また施設全体で身体拘束廃止が行えるようにしました。長期入居者1名が身体拘束を実施していましたが、会議等で意見交換し様々なケアを実践した事で廃止とする事が出来ました。②看取り介護については、ゆうらぎとしての看取り介護が確立されていなかった為、新たにマニュアルや指針を整備し、統一を図りました。また、積極的に家族にも看取り介護に関わって頂けるように看取り前にはカンファレンスを実施し、現状報告・利用者の情報収集・家族への協力要請を実施し個々に応じた看取り介護が出来るようにしました。結果、お亡くなりになった際には「ゆうらぎで良かった」との良いお声を頂けるようになりました。今回2点の取り組みについては、一つの軸として確立させ、発展を図っていきます。

組織につきましては、一昨年度から介護主任を設けた事で、迅速に且つ効果的に問題に対して対策を講じることが出来、引き続き退職者0名を達成しております。また、行事についても個別・全体的に質の向上を目指したことで介護職だけが行事を行うのではなく、他の職種も主となり行事を実施した事で以前よりも喜びの声が増加しています。今後も継続し、利用者の満足度向上を目指して行きます。昨年度は、3年に一度行われる介護報酬改定がありました。研修等に参加し、いち早く情報収集した事で大きなトラブルもなく移行することが出来ました。加算取得についても、体制を構築し選ばれる施設作りを進めた事で新たに加算を取得することが出来ました。

### 2019 年度への課題及び展望

今年度は、消費税増税に伴う介護報酬改定や処遇改善加算の見直し、改元等時代が変わろうとしています。その環境変化に適応し、更に職員一丸となりゆうらぎ独自のケアが展開出来るように取り組んでいきます。

①予防処置の立案、また起きた際の事故分析を詳しく行い事故の減少に繋げ、安全・安心を提供する。

②入居時には、ご家族より意向を確認し希望に即したケアを提供する。看取りを希望された際は、ご家族と積極的にカンファレンスを実施しニーズを把握し、個々に応じた看取りが展開できるように支援していく。

③ゆうらぎとしての排泄ケアの考えを確立させ、ご利用者の状況に応じた排泄ケアを提供する。

④行事実施後にはすぐに広報媒体等にて内外に情報を発信しブランド力強化を図る。

⑤リーダー面談を毎月実施し課題の抽出・解決に向けて一体となって取り組む。また、何か問題を抽出した際には速やかに面談等を通じて、解決を図り働きやすい職場環境を作る。

⑥主任・リーダーが成長を目指した目標を掲げ、各職員が一体となって目標に向かって取り組む事が出来る体制を構築する。

⑦新規加算取得に向けて、他職種が一体となって体制を構築し早期取得に向けて取り組み、選ばれる施設作りを目指す。

⑧ショートステイの質を向上させ、選ばれる事でショートステイ稼働率100%以上(空床利用含む)を目指す。

## ゆうらぎデイサービスセンター

<p><b>2018 年度事業所総括</b></p> <p>昨年度末からの利用者の入院・入所・死亡、それに伴う利用者の減少が、今年度にも大きな影響を及ぼしている為、今後の取り組みとして、居宅事業所に対する、営業の試行錯誤、現在利用されている利用者の満足度の向上がより必要ではないかと考えています。</p> <p>2018 年度は、目標とした稼働率を維持できませんでした。一番の要因は利用者の入院・死亡にあります。毎年、入院や入所などで利用中止になる方は多数いますが、そのほとんどの方が、利用回数の多い利用者で、新規を獲得しても週 1 回からとなる為、減少していくと見られます。</p> <p>アクシデント・インシデントの件数は昨年より減少しています。常日頃より、事故への注意喚起をご利用者にも呼びかけ続けた結果となっています。</p> <p>2018 年度は 6 月に 1 名の職員が退職となり、7 月に異動が 1 名、産休・育休が 1 名となっています。しかし 2 月より看護職員は、4 名体制となり、より一層の危機管理に対しての意識向上に努めてこれたと思います。今後も職員の気づきを増やし、予防処置の充実を図ることにより、より安全で快適な利用環境の整備に努めてまいります。</p> <p>2018 年度は、1 名の新入職員を迎える事となった為、先輩の指導のもとサービスの質を落とさぬように努めてきましたが、前年度に比べ利用者を増やせなかったことは、来年度の課題です。</p> <p>この 1 年間で取り組んできたことを下記に記述します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各月ごとに教育訓練を実施。職員の能力向上に努めた。</li> <li>○ 利用者増加に伴い、新しいレクリエーションの創作と取り組み等、ソフト面を強化する事で、利用者から選んでいただけるように努めた。</li> <li>○ 淡路市の通所系の事業所が集まる会議へ参加し、情報の共有を図った。</li> </ul> <p>この結果として、本年度稼働率は 77.5%、延べ利用者数は 14376 人となりました。前年度の年間実績から比べても、延べ利用者数はマイナス 787 名となっており、1 日平均約 2.5 名の減少となっています。</p>
<p><b>2019 年度への課題及び展望</b></p> <p>2019 年度は下記の目標を設定し、職員一丸となり更なる利用者の確保を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①増加する利用者により統一したサービスを提供していく為に、施設内部・外部への研修の参加・他事業所への見学を行う事で、自事業所の質の向上を図ります。</li> <li>②各職種の能力を高める為に、資格取得を図ります。</li> <li>③事故を未然に防ぐ為に、職員間で情報の共有を図っていきます。</li> <li>④利用者の普段口にされることの無い声を吸い上げ、顧客満足に努めます。</li> <li>⑤現在のサービスを満足とするのではなく、新しいレクリエーションへの取り組みを行います。</li> <li>⑥より個別性を高め、個々との関わりを密にとっていきます。</li> <li>⑦地域との関わりも今後は、より深めていきます。</li> </ol> <p>以上の点について今年度より、ゆうらぎデイサービスセンターは取り組み、体制の強化を行っていきます</p>

## ゆうらぎ訪問介護ステーション

<p><b>2018 年度事業所総括</b></p> <p>今年度の介護報酬改定では、地域包括ケアシステムの深化がさらに求められます。介護予防・重度化防止・医療と介護の連携等が課題となった。従来の介護給付による在宅介護に加え、総合事業や共生型介護なども加わり、制度は複雑化している。こういった流れの中で、介護職の立ち位置はどうあるべきか？多職種連携のケアチームを支えるうえで、介護職同士はどのように連携を図っていったらよいか？が問われます。</p> <p>昨年度は事故のリスクを減らす、インシデントを見つけることに奮闘しました。利用者ひとりひとりに向き合い、1 ヶ月の間に 2～3 回程の訪問になってしまったり、入院になったりと、思うようにつながりにくかった。</p>
<p><b>2019 年度への課題及び展望</b></p> <p>今年度は、事故が発生したらどのように対応していくかをみんなで考えます。また利用者の状態に合わせてきめ細やかなサービスを実施して行きたい。そのためには、訪問介護員同士、何かあればすぐに連絡を取り合うような連携や情報共有を密にし、「ひとりのプロフェッショナル」として、意見交換をしたり、知りえたことはみんなに伝えていく、伝えられるように勉強会等ができる場を提供していきたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①利用者にとっての安心できるような環境づくり、事故リスクをみつけ、インシデントから発生時にはどう対応していくかを考える</li> <li>②利用者とのコミュニケーションから、ひとりひとりのニーズを意識し、生活の質の向上（自立生活・支援）を考える</li> <li>③多職種との連携・協力（かかわり方）し、支援の輪を広げていけるように努める</li> <li>④広報（へるば一だより）を通じ、事業の内容等を発信していく</li> <li>⑤「ひとりのプロフェッショナル」として、訪問介護員同士の連携・情報を共有し、意見交換ができる環境づくりに努める</li> <li>⑥専門技術習得に向け、研修会や訪問介護員が主となる勉強会を進めていく</li> </ol>

## 養護老人ホーム北淡荘

### 2018年度事業所総括

2018年度は、月初め満床の目標に苦勞しながらも、平穩無事に施設運営ができていました。しかし、2019年1月、インフルエンザが大流行し、日本国内が物情騒然としている中、北淡荘のインフルエンザ感染拡大と、初期の対応に問題があるとマスコミに取り上げられ、世間の批判的となりました。県より、北淡荘の対応に問題なしとの発表はありましたが、今後、北淡荘に対する周囲の見方も厳しくなると予想されます。また、インフルエンザ感染の影響もあり、特定の利用を三週間程停止した事から、他の事業所の収益にも大きな影響を与え、本当に申し訳なく思います。今回の感染を検証し、同様の事が起きないように取り組んでいきます。

### 2019年度への課題及び展望

2019年度は、インフルエンザ感染拡大の影響から、北淡荘を取り巻く環境も厳しくなり、北淡荘の失地回復と、選ばれる施設になるため、さらなる努力が必要であり、職員個々が強い責任感を持ち、スキルアップに努め、利用者が安全・安心な生活が送れるよう支援していきます。

- ①利用者情報の活用と、関わり、観察を深める事により、安全、安心な生活が、継続して送れる環境を作る。
- ②養護老人ホームに関連する機関との連携を図り、養護対象者の発掘、入所に努める。
- ③職種間の連携、協力を図りつつ、緊張感のある職場環境を作る。
- ④達成感が得られる目標設定と達成に向けた支援の実施。
- ⑤職員個々が、責任感と、スキルアップが図れる支援の実施。
- ⑥養護老人ホームの月初充足率98%(164名)、特定利用者の月初充足率95%(57名)を目指し、併せて、経費削減に取り組み、安定した収支状況を作る。

## 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ

### 2018年度事業所総括

開設から7年が経ち、平成30年度は

- \*利用者満足の向上を目指したケア、サービスの見直しを行い質の向上を図る。
  - \*新たな加算取得等を行い、前年度以上の収入を確保し、同時に経費削減と収益増を目指す。
  - \*地域交流を積極的に行い、地域関係機関とも連携や情報共有を図り、信頼できる運営を図る。
- を大きな目標として進めてきた。

『利用者満足の向上を目指したケア、サービスの見直しを行い質の向上を図る』に関しては、介護では個別ケアの更なる取り組みとして個別での認知症ケアを進めた。また、ご利用者の余暇活動の充実や日常生活の中での非日常を感じて頂けるよう支援した。看護では、ご利用者の「終末時の意向確認」をご利用者ご本人にも行い、サービスの向上に繋げた。また、短期入所サービスのご利用者に対しては、訪問看護事業所と連携し「在宅中重度者受入加算（短期入所利用中でもリハビリを受けることが出来るサービス）」を算定し、ご利用者、ご家族のご希望を叶えることが出来た。また、荷物の預かりサービスを行い、ご利用者やご家族の負担軽減となり多くの「喜びの声」を頂く結果となった。

『前年度以上の収入を確保し、同時に経費削減と収益増を目指す』に関しては、「年間の総稼働率98.3%以上の達成を確保する」目標を達成し、9月度と1月度には長期入居と短期入所の合計総稼働率100%を達成することが出来た。また、インフルエンザ感染が流行した冬季にはご利用者の感染ゼロを実現し、ご利用者に安全、安心なサービスを行う事が出来た。

経費削減の取り組みとしてはペーパーレスや日々の業務の中での水道、光熱費の節約や公用車のエコドライブに努めた。

『地域交流を積極的に行い、地域関係機関とも連携や情報共有を図り、信頼できる運営を図る』に関しては、ご利用者と一緒に外出や外食に行く機会を設け、個別にご自宅に帰宅する機会を持ち、ご家族との外出の調整や支援を行った。その他、地域での祭りや花見、選挙などにも参加を勧めた。

また、地域の小学生や園児との交流や大正琴のボランティアの定期的な訪問や多目的ホールを利用し、地域住民や学生の写真や絵画、書初めなどの展示を行い、一般の方の見学も多くみられた。

また、運営推進会議を通して町内会長や民生委員、社会福祉協議会や市職員とも連携、情報共有を図り、課題解決に取り組んだ。

### 2019年度への課題及び展望

来年度に向けては、今年度取り組んだ事の継続を図りながら更なる質の向上と改善を図っていききたい。

また、各専門職が施設内のサービスだけでなく地域へのサービスや取り組みなどにも参加できるよう体制作りや教育訓練を進めていきたい。運営面においては、来年度は消費税の増税も予定されていますのでご利用者、ご家族にも適切な説明とご理解を得ながら、無駄な支出は抑え、目標とする稼働率以上の結果を残せるよう努めたい。

また、地域住民や関係機関の方から「信頼される施設」となるよう誠意を持って日々の業務を行うと共に地域との関わりや活動などにも積極的に参加していききたい。

## 千鳥会デイサービスセンター ほほえみ

### 2018 年度事業所総括

30 年度は昨年度と同様に通常規模、定員 35 名での運営でした。1 日の平均利用人数は 27 名程度で、昨年度から 3 名程増加することが出来ました。また、利用時間が 1 時間毎の算定となり、昨年度と同様の利用時間では減算となる方も多く、利用時間の延長や利用回数の増回に繋がっていくことで対応しました。30 年度も年間を通して当初予算、目標稼働率を達成することが出来ています。職員については、4 月に 1 名、8 月に 1 名退職と、ご利用者が増える中で職員不足の状況が続いていますが、1 月に 1 名入職し、各職員や他部署の協力も得ながら対応しています。

30 年度の目標としては、①接遇・介護の質の向上に 3 か月ごとにテーマを決めて取組み、利用者満足度の向上を目指す。②各職員が外部研修に参加する機会をつくり、各職員のスキルアップによる全体的な向上を目指す。③緊急・困難ケースについて、可能な限り柔軟な対応を行うことで、地域・関係機関の信頼を高めていく。④職員間の連携向上、業務の見直しを行い、働きやすい環境を整備する。⑤利用者確保に努め、年間を通して当初予算の達成を目指す。を掲げて取り組んできました。

接遇面では、職員の言葉使いや態度について向上に取り組みましたが、今後も継続して徹底していく必要があると感じています。介護面では入浴・排泄・食事・状態変化の把握共有をテーマに取り組みました。入浴については、月に 1 週間の入浴剤を使用するお楽しみ入浴を継続、介助内容について必要以上の介助とならないように取り組みました。排泄については、定時のトイレ誘導や帰宅前の排泄確認を徹底しました。食事面では、自助具を活用することで、出来る限りご自身で食事を楽しむ事に取り組みました。状態変化の把握共有は、細かな変化を記録し朝礼等で共有していくことで、事故防止に繋がっていきました。

職員の研修参加については、職員不足の状況により外部研修には参加出来ませんでしたが、内部研修として、介護方法、ご利用者情報、緊急時対応等を実施しています。緊急・困難ケースの受け入れについては、医療面で断るケースはありましたが、他はすべて受け入れるように調整しています。見守りサービスと並行して、サービス提供時間外での対応にも取り組んでいます。

職員間の連携向上・業務の見直しでは、ほのぼのを活用して各記録、連絡帳の作成を行い、各職員が確認しやすい状況になりました。また、職員の業務分担や当日の担当表を作成し、業務の差を少なくするよう取り組んでいます。

### 2019 年度への課題及び展望

31 年度に向けては、職員の充足が必要不可欠な状況ですが、職員不足がサービスの質の低下に繋がらないよう各職員の力量の向上が必要だと感じています。引き続き内部研修の開催と、業務の見直しや改善、職員間の連携向上に取り組んでいきたいと思えます。新しい取組みや地域との交流等、ご利用者の満足度の向上に繋がっていくことで、30 年度以上の実績を目指していきたいと考えています。

## 小規模多機能型居宅介護事業所 ほほえみ

### 2018 年度事業所総括

平成 30 年度は利用者家族と一緒に悩みできることを提案支援していくという過去のスタイルを継続しながら、施設方針のもとあらゆる面で更なる質の向上に重点を置いてきました。

年度を通して職員の福祉観倫理観の教育の一環として、事業所独自のスローガンを毎朝ミーティング時に職員一同で確認。職員の異動による入れ替わりがありながらも事業所のスタイルを確固たるものにしていきます。また年度途中からは、新たに交通安全や感染症予防のための、週間スローガンをデイサービスとともに作成し、同様に朝のミーティング時に確認。在宅サービス事業所として細かな部分の意識改善を図ってきました。結果、年度途中より送迎等のアクシデントも減らすことにつながっています。メディアでの介護事故や感染症拡大の報道が目立つ昨今であり、全体を対象とした教育訓練だけでなく、職員個々の日常の意識づけからもアプローチしていくことが求められます。今後とも質の向上のため継続した取り組みが必要と感じています。

実績としましては、平成 29 年度は月平均登録者が 27 名と高い水準を達成することができました。平成 30 年度は、健康管理と生活支援の充実により在宅での生活がより長く継続できていた利用者が、徐々に体力低下もされ、逝去され登録解除される方も相次ぎました。それぞれ個々の利用者、家族の関係性に応じ、寄り添う支援を提供できたとは自負しています。その影響もあり、上半期は当初予算に対し、実績が不足する状態でしたが、下半期は新規の相談依頼も相次ぎ、登録利用者も再度増加。平成 30 年度の月平均登録者は 26 名を超え、当初予算も達成できました。

余暇活動面での質の向上としましては、平成 29 年度初めて実施した、宿泊旅行もよりボリュームのあるものにすることができました。具体的には小豆島への宿泊旅行となり、利用者 6 名、職員 4 名、公用車 2 台とすべての面で規模が大きい旅行となりました。職員の内訳として、看護職員 1 名も付き添いを行い、旅行中の健康管理も含めて対応することができました。前回の経験を踏まえ、より利用者満足へ還元させることができたと考えています。他にも、須磨浦公園花見や明石三白館大衆演劇鑑賞、淡路イングラドの丘など日帰り旅行も数多く企画し、利用者個々の暮らしにおいて、気持ちの面での支援にも十分に取り組めた 1 年となったと自負しています。

### 2019 年度への課題及び展望

平成 31 年度も継続した質の向上を図りながら、日々の支援の中でご利用者、ご家族、地域との関りを深め、生き方や価値観の理解と支援に努めます。そして、その主体性を尊重し、寄り添う支援の在り方を模索し、実現していきます。しいては生活支援のみならず、多様な自己実現の支援へとつなげていきたいと考えています。

## ちびっこランドちどり

### 2018 年度事業所総括

認可保育所として 4 年目を迎え、地域の方にも随分ちびっこランドの存在を知ってもらえるようになってきました。定員 6 名から 9 名に増やし、4 月から 8 名の月極保育の園児たちと、一時保育園児たちとの新年度がスタートしました。ほとんどが前年度からの継続園児とあって、新年度の園生活はさほど困惑することはありませんでした。保育指針をもとに、年齢別年間保育計画、自由あそびと一斉活動の設定保育時間をバランスよく組みこみ、発達過程や個々の個性に配慮した月間保育計画を作成し、異年齢児が楽しく過ごせる保育内容の充実に努めてきました。異年齢の子ども達と一緒に過ごし自由に遊ぶ中で、小さい子への思いやりの心も芽生えました。在籍している園児は 1 歳になったばかりの園児がほとんどでしたので、一人ひとりの子どもの情緒が安定するよう愛着関係を築くことを重点に保育に努め、家庭と園での様子を伝えあい、信頼関係を築いていきました。

まず保育者は子ども達の言葉の獲得につなげるために「ゆっくり、はっきり」とした言葉かけをし穏やかに保育をすることに心がけました。それに伴い、子ども達のやりたいことに応じ保育プログラムを臨機応変に変更し、子ども達の興味関心を引き出すよう工夫しました。そのことで、子ども達はお友達同士でルールを作ってごっこ遊びを楽しむようになり、子ども達同士で遊び発達に大きく結びつくことが出来ました。

行事計画は、四季を通して多彩な行事を職員間で話し合い、職員と子ども達が心から楽しめる行事になるようにと計画し実施しました。保護者の方からも、行事に対して喜び声も沢山いただくことが出来、喜びの声は職員にとって次への意欲となりました。また、他事業所での行事への参加することができ、地域の方やたくさんの方とのふれあいができ、子どもたちにとって良い経験となりました。お天気の良い日は積極的に戸外へ散策にできるようにし、運動面への配慮も行いました。春には桜を見に近くの神社へ、夏には水遊び、納涼祭、イングランドの丘への遠足、サツマイモ掘り、みかん狩り、クリスマス等、ちびっこならではの行事は職員にとっても楽しみの一つとなっており、子どもたちと一緒に行事を楽しみ、良い思い出作り、良い経験となって子どもたちの成長の一つとなっていきます。そういった経験をしながら、子どもたちも、職員も、一日一日成長していると思います。

昼食については、管理栄養士と話をしながら子ども達が食べやすい大きさや味付けで提供しました。自力摂取をめざし、自分で食べられるよう支援し、難しいところは援助し「自分で食べれた！」という思いを持てる声かけや援助を心掛けました。最初はこぼしたり服が汚れたり大変でしたが、少しずつ上手に食べられるようになってきています。苦手な食べ物も小さく切って一口から始め、「野菜食べられた！」という喜びを味わうことで、食べる量も少しずつ増えてきています。「食事はおいしい!」「食事は楽しい!」ということをこれからも伝えていきます。乳児の授乳については抱っこで授乳し、成長に合わせて保護者と話し合いながら離乳食を提供しました。少しずつ食べる量も増えていき離乳食に向けて今後も進めていきます。アレルギーへの配慮は、特にアレルギーがきつい園児については、保護者と話し合いお弁当を持参していただいています。昼食時には、顔色や体調に十分注意しながら食事の援助を行っています。(現在一時保育で利用されている子ども 1 名が対象)

午睡やトイレトレーニングは、一人ひとりの生活リズムに合わせた環境設定のもと実施しています。トイレトレーニングはトイレに座るところから始め、「出なくても褒める」「次はでるかな」という期待を持たせる言葉かけで園児の不安や恐怖感を取り除き、基本的な生活習慣の獲得が無理なく進められる様配慮しました。午睡では、睡眠チェックを 10 分間隔で行い記録しています。少しの物音でも起きてしまう園児もおり、環境への配慮は悩みの一つとなっています。

そのほか毎月避難訓練を実施し、大型災害や不審者に関して職員全員で対応策の勉強会を実施しました。子ども達へも、地震や火災に対しての怖さや心構えなどを分かりやすくお話し、いざという時の動き方や心構えを毎月確認しながら行っています。子どもたちも最初は泣きばかりでしたが、回を重ねるうちに地震の恐怖、火災の恐怖さが理解できて来たように思います。

### 2019 年度への課題及び展望

近年様々な保育事情が話題となっています。ちびっこランドでは、職員間で保育の見直しを行い、全職員で問題解決に向けて話し合い、その子にあった保育の提供を心掛けています。保護者や保育者と密な情報交換を行い子ども達の環境づくりに努めました。一時保育を利用された方の口コミで、新規の一時保育登録者も増えてきて、地域における子育てニーズを把握し、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上と保育環境や保育機能また、保育内容の充実に図り計画、実施していきたくと思います。

## グループホームしおさい

### 2018 年度事業所総括

しおさいでは、ご利用者のご家族、そして継続的な地域住民との関わりや、社会参加を行って来ました。日常生活で、ご利用者が楽しみめる、快活ある生活の実現を目的にしています。職員に於いては、介護の仕事へのやりがい、モチベーションの向上に繋がられるよう努めています。

運営面では、H30 年度は、4 月から 2 月まで毎月 1 名以上の入院者があり、利用者稼働率が H29 年度、96.9%から、H30 年度は 90.7%となりました。2019 年度は、稼働率 97.0%以上を目標に取り組んでいきます。

光熱費の削減対策として、リビングなど使用頻度の高い箇所の LED 電球への変換工事と、経年劣化による工事や消防非常照明の交換工事も行いました。

防災面では、千鳥会法人全体の第 1 回防災訓練として、食糧支援の訓練も行いました。自主訓練として南海トラフ大地震（津波）避難訓練を実施しました。今後も訓練を継続していきます。

### 2019 年度への課題及び展望

2019 年度は、運営面で稼働率は 97.0%以上を目標とし、収入面での安定した、適切な事業運営ができるよう取り組んでいきます。しおさいご利用者が、地域の住民として、楽しみや、いきがいをを感じる事ができるよう支援し、ご家族との関係性と、社会参加を継続できるように、職員一同で協働して努めて参ります。防災面では、来るべき南海トラフ大地震地震の災害に備えます。ご利用者及び職員の安全を確保する事を目的に、南海トラフ大地震避難訓練を行っていきます。また、災害に備えた備蓄品についても再検討し、適切に備えていきます。



## しおさいデイサービスセンター

<b>2018年度事業所総括</b>
平成30年度は、新規利用者増加が1名に留まり、入院者と死去によるご利用者数の減少となりました。H30年3月末時点で、3名の利用者であり、うち1名が入院中となっています。延べ利用者数は、373人で、前年度489人から大きく減少となる結果となりました。しおさいデイサービスを利用する事で、ご本人が他者との交流を持ち、閉じこもり防止と社会参加となり、楽しみや、生きがいを感じられるよう、職員間で協働して支援してきました。ご家族に於いては、ご自身の時間の確保や、介護負担が少しでも軽減となり、ご利用者やご家族から喜ばれるように努めています。2019年度は新規利用の増加が課題となります。
<b>2019年度への課題及び展望</b>
今年度に於いては、新規利用者の増加が目標であり、且つ課題でもあります。少人数のゆったりとしたサービスをアピールし、ご利用者の増加となるよう努めます。ご本人が他者との交流を通して、閉じこもり防止と社会参加となり、ご本人の楽しみとなるように支援し、ご家族に於いては、ご自身の時間の確保や、介護負担の軽減となるように職員間で協働して支援していきます。ご利用者、ご家族共に喜んで頂ける事を目標に努めて参ります。

## 小規模多機能型居宅介護事業所 めくもり

<b>2018年度事業所総括</b>
2018年度平均登録者23,3名となりました。登録者稼働率80%となりました。月平均(通い人数12.2名)(訪問回数13回)(泊まり人数4.1名)。「要介護1」の方の増加で通い、泊まり回数の増、又は独居の方の訪問回数増、緊急時受け入れなど一人ひとりの多様な生活に対応した柔軟なサービス提供を心がけました 10月には家族交流会を開催、10家族参加でめくもりの現状や取組等の報告をしました。 地域との連携については、淡路市学校支援地域本部事業(学校・家庭・地域が果たすべき教育機能を十分に発揮する事が出来るよう三者が緊密に連携し、学校の教育活動を支援する為、地域の人たちがボランティアとして学校の求めに応じた支援活動を担って頂く事業)とし志筑小学校との交流小学校2、4年生の生徒が「町探検、インタビュー体験」で施設の働く人の思いや願いについて学び、自分でインタビューを試みる経験を行いました。今後も継続して交流を図って行きます。 ボランティア(花壇作り・手芸・音楽)・サロン活動・いきいき百歳体操・地域の祭り・日常的な買い物・通院・理美容・散歩等により、居宅介護支援事業者・住民からの問合せも増え、地域福祉の拠点としての役割も図れたかと思われまます。 又施設内外での催しの充実を図って行きます(お花見 日帰り旅行 外食会)。 事業運営面では登録者数の安定と経費削減ではコスト意識をもち安定した運営の確保を目指します。
<b>2019年度への課題及び展望</b>
2019年度は、事業運営面では登録者数の安定と収入面での安定、又経費削減ではコスト意識をもち安定した運営の確保を目指します。施設内外での催しの充実を図って行きます(お花見 日帰り旅行 外食会)。

## 佐野デイサービスセンター

<b>2018年度事業所総括</b>
4月にサービス体制加算Ⅱを取得し、稼働率上昇をめざし取り組んできた。結果としては大きな上昇が見られなかったが、稼働率70%をこえる月が何回かあったことは良かったと思う。監事監査や指導監査では大きな指導なく終わったことは良かった。利用者も大きなアクシデントなく過ごせたことも良かったと思う。
<b>2019年度への課題及び展望</b>
来年度に向けても、稼働率の上昇を目指すために、ケアマネージャーとの連携や、利用者様や家族様と関係を密にし、佐野デイサービスを利用して貰えるようにしていきたく。行事を増やし、利用者様に楽しんで頂ける機会を増やしていきたい。広報誌やSNSを活用し、地域や外部に佐野デイの取り組みを情報発信していきたい。

## 千鳥会福祉用具貸与事業所

<b>2018年度事業所総括</b>
10月より事業を開始し、北淡荘のご利用者を中心に半年間で3名の利用者に福祉用具を貸与することができました。また、アセスメント等を行いながら、ご利用者やケアマネージャーとコミュニケーションをとり、知識と経験を少しずつですが身につけていくことができました。 3月中旬に1名が北淡荘を退所され、福祉用具の利用も終了しましたが、今後も確実にご利用者を増やしていけるよう、福祉用具専門相談員として経験を積み、スキルを上げていきたいと考えています
<b>2019年度への課題及び展望</b>
まずは、少しずつでも確実にご利用者を増やしていくことを目標にします。そのために北淡荘ケアマネージャーとしっかりと連絡をとりあい、福祉用具を必要としているご利用者に、適切な福祉用具を選定していきたいと思ひます。また、福祉用具を貸与しているご利用者にも、定期的にモニタリングを行い、都度身体に合った福祉用具を提供したいと思ひます。